

児童養護施設におけるリービングケアの実施内容

ー北海道内の児童養護施設への質問紙調査からー

○ 北海道医療大学 氏名 片山 寛信 (009094)

キーワード：リービングケア・アフターケア・児童養護施設

1. 研究目的

本研究の目的は、児童養護施設で実施されているリービングケアの実態を明らかにすることである。本発表では施設形態によるリービングケア実施内容の相違について報告する。

2. 研究の視点および方法

【研究対象者】北海道内 23 の児童養護施設の施設長に電話連絡し、研究の趣旨を説明。調査協力の同意が得られた 22 施設において、2023 年 3 月1日現在在籍している直接支援職員（保育士・児童指導員・家庭支援専門相談員・里親支援専門相談員・自立支援担当職員・個別対応職員・心理療法担当職員を基本とした子どもへの支援に直接に関わる業務を担う者）を対象とした。また、本体施設（大舎・中舎・小舎・ユニット型）で勤務している職員だけではなく、地域小規模児童養護施設や分園型小規模グループケア（以下、地域小規模）で勤務する職員も対象とした。各施設の調査対象職員数は、施設長より指示を受けた人数とした。

【調査期間】2023 年 3 月～2023 年 4 月

【研究の具体的方法】質問紙の回答は手記式回答と WEB フォームを併用し、回答者が選択できるものとした。重複回答を避けるため回答者番号を割り振った。手記式回答を選択した場合の調査票は、施設内で期日を設けて集約し一括返送を依頼。WEB 回答の場合は、調査対象者個人のスマートフォンやタブレットなどを用いての回答を依頼した。

質問紙におけるリービングケアの内容に関する項目は、先行研究で玉井ら（2013）が行った調査項目を基に、一部見直しを行い作成した。作成した質問項目を児童養護施設現役職員、元児童養護施設職員らとの意見交換と、社会的養護に関する研究を実施している専門家との意見交換を実施した上で修正した。中立的選択肢への回答の集中を避けることを踏まえ 6 件法とした。

3. 倫理的配慮

北海道医療大学看護福祉学部倫理審査委員会の承認を得て実施。（承認番号 22N030028）

調査の説明文には、調査への協力は研究対象者の自由意志であり、同意をする場合のみ回答を求めることなどを明記した。なお本発表に関連して、開示すべき COI はない。

4. 研究結果

調査の同意が得られた22施設に在籍している直接支援職員600人を対象として質問紙を配布したうち、325の回答があった。(回収率54.2%)

先行研究を基に作成をしたリービングケアの内容27項目と、施設形態(本体施設・地域小規模)についてFisherの正確確率検定を実施した結果、以下のことが明らかになった。

本体施設と比較し、地域小規模における実施率に有意差がみられた項目は、「ゴミの出し方(分別や収集方法)について教える」、「日常的に食事作りを見る機会を設ける」、「自活生活において、生活費(家賃、光熱費、食費など)がどれくらいかかるかについて考える機会を持つ」、「施設のルールとは別に、日々の生活(起床、就寝時間など)を、子ども自身が自己管理する機会を持つ」、「子どもと、ゆっくりと話をする時間を持つ」の5項目であった。有意差がみられたすべての項目で本体施設と比較し、地域小規模において実施率が高かった。

また、今回の調査の中で、「自施設以外にケアリーダーについて相談できる場所があるか」について、71.3%が「ない」と回答。Fisherの正確確率検定を実施した結果、本体施設と地域小規模間に有意差はみられなかった。このことから施設形態に関わらず、ケアリーダーに関することを自施設のみで検討している傾向が見られた。

5. 考察

分析の結果、本体施設、地域小規模ともに高いレベルでリービングケアに取り組んでいたが、地域小規模の方がより実施されていることが明らかになった。有意差が見られた5項目のうち、「ゴミの出し方」や「日常的に食事作りを見る機会」は、家庭的な雰囲気や養育を行う、地域小規模の特徴が発揮されていると考えられる。他にも「施設のルールとは別に、日々の生活…を、子ども自身が自己管理する機会」や「子どもと、ゆっくりと話をする時間を持つ」においても、少人数での養育で個別化がしやすい地域小規模の特性が発揮されていることが考えられる。有意差が見られなかった項目においても、本体施設と比較し、地域小規模における実施率が高い傾向があることから、地域分散化された少人数対少人数の養育環境において、一定のリービングケアが実施されていることが想定される。一方で、「自施設以外にケアリーダーについて相談できる場所があるか」の問いに、71.3%が「ない」と回答しており、外部機関との多職種連携が取りづらい状況であり、職員の孤立に繋がる可能性が危惧される。

文献：玉井紀子・森田展彰・大谷保和(2013)「児童養護施設におけるリービングケアに関する研究：生活担当職員を対象とした中高生のケアに関する調査」『子どもの虐待とネグレクト 第15巻第1号

※JSPS 科研費 21K01995 の助成を受け実施した。年度末のご多忙の折、調査にご協力いただいた関係諸氏に深く感謝いたします。